

～雪から広がるさまざまな学びの世界～
第3回『雪の総合的な学習』研究会 を開催

- 教育実践総合センター・附属札幌小学校 -

教育実践総合センターと附属札幌小学校では、身近な雪を教室で広く活用してほしいとの願いから共同プロジェクトを進めており、全道各地の教育現場の先生方多数に参画頂いております。その情報発信の核となっているのがWebページ「北海道雪たんけん館」(<http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp>)で、標記研究会の目的はこのページの活用を考え、その普及を図っていくことにあります。今年度は1月28日(金)に附属札幌小学校を会場に開催し、教員を中心にPTAや行政、企業の方など各地(遠くは岡山県)から158名の方にご参集頂きました。

会はプロジェクトで中心となって活動頂いている二人の先生による公開授業をベースに進めました。

6年生・社会科「札幌の除雪は世界一?!」
佐野浩志先生(札幌市立緑丘小)

札幌市を例にとると、雪対策予算は150億円超にもなりますが、市政に関する要望のトップは生活道路の除雪など雪対策に関することになっています。今回の授業のテーマは、除雪をどのようにしていけば良いかを市民の一人として考えるものでした。「雪割り運動などで市民も協力を」、「無駄を減らして、除雪に回そう」など児童から様々な提案やアイデアが出されました。日常生活と社会との関わりを考える上で、雪が格好の素材となり得ることを改めて確信しました。尚、普段通りの授業をお見せしたいという思いから、児童



公開授業「札幌の除雪は世界一?!」

の皆さんには片道1時間以上掛け、来て頂きました(しかも、佐藤慧緑丘小校長自らのご引率で)。

4年生・総合的な学習の時間(国際理解-英会話活動)「Let's go outside!」

神林裕子先生(附属札幌小)

小学校英語では、身近で親しみのある素材を用いることが特に大切です。ALTのケビン・マギー先生も加わり、雪を題材にゲームや歌を楽しみながら、コミュニケーションが図られておりました。「雪たんけん館」を通して、神林先生を始め、附属札幌小の皆さんが築き上げてきた小学校英語の先駆的実践を全道の学校に少しでも広めていければと考えております。

堀田龍也先生(静岡大学)には、ご多忙にも関わらず、昨年に引き続きご来札頂き、「ついに2005年!何をどう変えるか」という題で、実践的なIT活用のあり方に関する講演を頂きました。「ITだからといってものすごい価値を求めなくて良い。便利な道具として使い切る。」といった主張に皆さん大きく頷いておりました。また、自らデジカメ撮影された当日の公開授業の様子を示しながら分析・総括頂き、説得力抜群の内容でした。

Webページ「北海道雪たんけん館」へのアクセス数は2001年5月の開設以来20万件を突破しました。Webページや研究会をさらに充実させ、全道の教育現場に雪を通した学びを定着できたらと考えております。(高橋 庸哉)



公開授業「Let's go outside!」